

北の大地とともに

CSRレポート 2012



安全・安心ネットワーク

安心のために、できることを一歩ずつ。
北の大地に防災と防犯のネットワークを広げて。



地域振興の取り組み
つながる、ひろげる、
ふれあいの輪。



水の循環プロジェクト
生命を育む、
美しい水を守りたい。



編集方針

「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社CSRレポート2012」は、当社グループのCSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) に対する取り組みをわかりやすく開示し、ステークホルダー(利害関係者)のみならずご意見をいただき、北海道の明るい未来を形づくる持続可能な活動につなげることを目的に発行しています。

[対象期間]

2011年1月1日～2011年12月31日。実績データは2011年、活動内容の一部は2012年も含みます。

[対象組織]

原則的にグループ連結会社を対象としています
(「グループ会社の概要」参照)。

[ご意見・ご感想]

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただきため、本レポートをお読みいただいたみなさまのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

作成部署・連絡先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社
〒004-8588
札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2135 [広報・CSR推進部]
ホームページアドレス
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

【CSRレポートバックナンバー】

バックナンバーは下記の当社ホームページでご覧いただけます。
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/company/csrreport.html>



CSRレポート2009



CSRレポート2010



CSRレポート2011

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 (コカ・コーラ指定会社)
〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2135(広報・CSR推進部)
ホームページアドレス <http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>
COCA-COLA、コカ・コーラ、GEORGIA、ジョージア、I LOHAS、いろは+は+は The Coca-Cola Companyの商標です。

2012年3月発行
次回は2013年3月の発行予定です。



【特集】 北海道のために、私たちができること

北海道コカ・コーラグループの活動ピックアップ



特集 1: 安全・安心ネットワーク

特集 2: 地域振興の取り組み

特集 3: 水の循環プロジェクト

北海道生まれの道産子企業として、
私たちは地元のみならず、ともに
北海道を応援するための
さまざまな取り組みを行っています。

19	17	15	13	11	9	7	3
地域社会 北海道コカ・コーラボトリンググループの 歩んだ軌跡 自動販売機オペレーターの一日	地域への取り組み 「ふれあい」と「きずな」を求めて	環境会計 自然と調和する「ものづくり」	環境負荷低減 つぎつぎ、いろいろ、エコ技術	環境コミュニケーション 北海道の環境に、できることって何だろう	特集3 水の循環プロジェクト 生命を育む、 美しい水を守りたい	特集2 地域振興の取り組み つながる、ひろげる、 ふれあいの輪	特集1 安全・安心ネットワーク 安心のために、できることを「歩ずつ 北の大地に防災と防犯の ネットワークを広げて
29	27	25	23	21			
工場見学／プロフィール 札幌工場へようこそ！ 会社の概要	ココ・コーラシステム さわやかに、人にやさしく	企業としての社会的責任 より信頼される企業を 目指して	品質管理 より高品質な「製品」を 求めて	マネジメントシステム 持続可能な 企業活動を目指して			



代表取締役会長

角野 中原
Kakuno Chugen

代表取締役社長

矢吹 健次
Yabuki Taketsugu

「いっしょに」
私たちは、北海道の緑豊かな大地に育まれた美味い水と良質な原材料を使い、北海道にある工場で各種の清涼飲料水を製造し事業活動を展開しています。
私たちが果たすべき役割は、「いつでも、どこでも、だれにでも」安全・安心かつフレッシュな製品をご提供するを基本として、北海道の大切な「水」を守りつつ、これまで以上に北海道のお役に立てる活動をしていくことを考えています。
そのためには、社員一人ひとりが自らのやるべきことをしっかりと見定め、いきいきと働きながら成長できる職場環境を整備することが重要だと考えます。このレポートをお読みいただいて、当社グループの考え方や活動に対し、より多くの方々のご理解・ご協力をいただければ幸いです。

安全・安心 ネットワーク

安心のために、できることを一歩ずつ

地域社会の安全と安心をまもるため、道内自治体・行政機関などを通じ、さまざまな場面での地域のみなさまのお役に立てるよう努めています。

私たちにとって東日本大震災は、まだ生々しい記憶の中にあります。そして、これからは不安定な経済の中で、復興という重い課題を背負って行かなければなりません。日々移り変わる世界の中で、大切なものを守っていくために「二歩」の地道な努力を決して手放してはならないと思います。

もちろん、地域の不幸は災害だけではなく、日常生活のあらゆる場面で発生します。そんな地域社会の「いま」を見つめ、私たちにとつてのかけがえないふるさとを守るため、当社は長年にわたり地域に根差した活動を続けてきました。

地域の安心を守るため 活動を続けています。

道内全域をカバーする物流網を有することから、2006年12月より地域の飲料水備蓄基地の代行を柱として、道内全市町村を包括する「災害時における飲料の供給等防災に関する協力協定」を北海道と締結し、防災のパートナーとして北海道のライフラインの一端を担っています。

この協定に基づき、電光掲示板付き災害対応型自動販売機を活用した市町村との協働の取り組みを展開。この自動販売機は、パソコンからのインターネットを活用し

地域の防災訓練に参加しています。

災害は、ある日突然暮らした遠隔操作により、市町村より地域情報や地域のイベント情報などを配信できるほか、災害発生時などの緊急時には自治体の判断で無料で飲料を提供することが可能です。2012年3月に、すべての市町村との間で、安全・安心のネットワークが広がりました。

そこでは人命救助や医療、防犯や防火、水や食糧の供給など、行政・民間・地域が一体となって対処しなければならぬ事態が発生してきます。当社は地域の防災訓練に参加して、飲料物資の輸送訓練や電光掲示板付き自動販売機のデモンストレーションなどを行いました。

災害は、ある日突然暮らした遠隔操作により、市町村より地域情報や地域のイベント情報などを配信できるほか、災害発生時などの緊急時には自治体の判断で無料で飲料を提供することが可能です。2012年3月に、すべての市町村との間で、安全・安心のネットワークが広がりました。



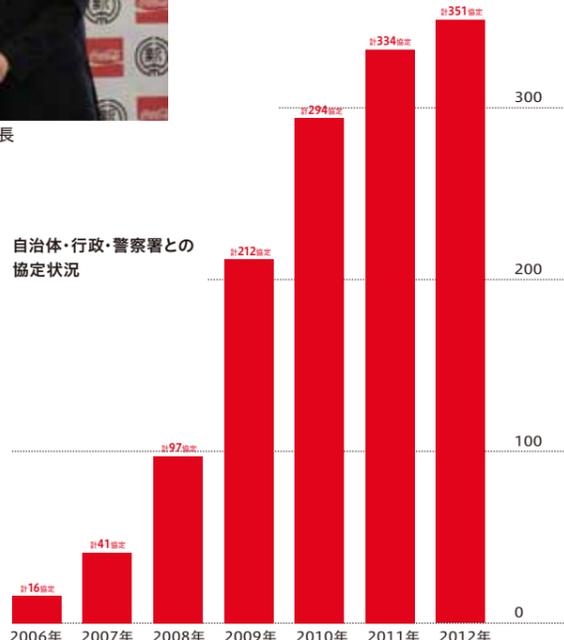
道内自治体・行政機関などを通じ、さまざまな場面で地域のみなさまのお役に立つよう努めています。

- 防災協力自動販売機 (179自治体・行政機関 539台)
 - 道の駅(おしらせ道ねっと) (103自治体・行政機関 114台)
 - 防犯ほっとインフォメーション (69警察署 387台)
 - 地域情報ネットワーク運用地域 (6自治体・行政機関 87台)
- 2012年3月末現在



協定を締結する浜田新得町長(右)と当社矢吹社長

北海道内 全市町村と 協定締結達成!



自治体・行政・警察署との協定状況

被災地への支援

東日本大震災発生直後、市町村が電光掲示板付き自動販売機を活用し津波警報を配信、また避難所に設置している自動販売機(26自治体 50万台)より約1万本の飲料を地域住民の方へ提供したほか、



支援物資準備

か、道内15自治体に約8千本の飲料水を避難所までお届けしました。また、東北の被災地へ「い・ろ・は・す」をはじめとする飲料水72万本の支援を決定し、政府の要請を受け、順次送り込みました。



被災地へ向かうトレーラーに運び込まれる飲料水



北の大地に防災と防犯のネットワークを広げて

地域の防災・防犯に取り組み、子どもたちの成長を見守り、
犯罪や事故に巻き込まれた人びとを支える
広域ネットワークづくりを展開しています。



「北の大地とともに」というスローガンのもと、私たちは安全・安心な地域社会の実現を願い、これからも地域や自治体と連携して、防災・防犯に関する支援活動を幅広く展開していきます。

子どもの安全を見守る運動を推進しています。

当社は「大人だけが子どもの安全を守ることができる」というコンセプトのもと、官民が一体となって「子どもの安全を見守る運動」を推進することを北海道へ提案し採択されました。現在、道民運動として、全道で展開されています。

2006年7月より、当社ではグループを挙げて全道の事業所と車両(1200台)にポスターやステッカーを掲示、社員一人ひとりが日々の活動の中で子どもたちの安全を見守っています。また、釧路事業所では、全従業員が交代で子どもたちの通学見守りボランティアに参加しています。

警察と連携し安心な地域づくりを目指します。

安全・安心な地域づくりを目指して、北海道警察と協働で展開している電光掲示板付き自動販売機を活用した「防犯ほっとインフォメーション」の取り組みが、2011年2月に全警察署で協定締結となりました。各道府県での全所管警察署とのネットワーク



は全国初となります。日頃より防犯ほっとインフォメーションを活用し、交通安全の情報を配信し、啓もうしていることが評価され北海道警察より表彰を受けました。



犯罪被害者支援活動に協力しています。

2010年7月、社団法人北海道家庭生活総合カウンセリングセンターとの間で、道内の「犯罪被害者支援活動寄付金」呈式



被害者及びその家族又は遺族」に対する犯罪被害者支援活動を協働で行うための協定を締結しました。これにより、全道の警察署に設置している自動販売機64台の売上金の一部を同センターに役立てていただくほか、自動販売機に「被害者支援に関するポスター」を掲示していきます。

地域の安全・安心見守り事例

路肩の雪山に乗りあげて動けなくなっている車両を発見し救出しました。

高速道路での衝突事故による車両の横転現場で車内に閉じこめられた運転者を救出しました。

海に落ちた釣り人を発見、救急車を呼びつつ救命活動を実施して救助しました。

道で倒れているご老人を発見、すぐに警察・消防へ連絡し同行しました。



防犯ネットワークを支援する自動販売機

防犯ほっとインフォメーション

防犯広報や身近な犯罪情報、事件情報などを配信します。



地域振興の取り組み

つながる、ひろげる、ふれあいの輪

北海道生まれの道産子企業として、私たちは地域社会を活性化する
さまざまな取り組みを行ってきました。これからも、
ふれあいをテーマに北海道のまちづくりを応援していきます。



き自動販売機を活用した情報配信など、
さまざまななかたちで地域を応援しています。
2009年9月、札幌市および清田区
との間で「さっぽろまちづくりパートナー
協定」を締結しています。
また、自動販売機に搭載した電光掲
板より観光情報などを配信する「大通公
園情報自動販売機」を公園内に設置する
など、札幌市を活性化する活動にも積極
的に参加しています。
2010年、帯広市と「協働のまちづく
りに関する基本協定」を締結しました。帯
広市は「環境モデル都市」として低炭素社
会の実現に向けて、温室効果ガスの大幅削
減を目指しています。
帯広市では、家庭や店舗から回収した
食用油で製造されるバイオディーゼル燃料
の利用を促進しており、2011年より
当社のトレーラーやルートトラックでも部
導入をスタートしています。また、ソーラー



パネル搭載自動販
売機の「e color
ソーラー」を集中
的に展開するほか
「帯広の森はぐく
む」でのウッドデ
ッキづくりなど、
環境にやさしいま
ちづくりに参加し
ています。
2010年、釧
路市と「釧路市民
とともに進めるま
ちづくりに関する
協定」を締結しまし
た。これにより「市民
活動センターわつと」と協働し、行政情報や
地域情報などを電光掲板付き自動販
売機から配信していくほか、「水都・釧路」
のシンボルでもあるスケート競技も応援し
ています。

これまで北海道は「経済の自立性に乏しく、歴
史や文化が浅い」と言われてきました。しかし、開
道140年を経た今日では道産子も第四世代となり、すでに独自の歴史と文化が根付いて
きています。雄大で多様性ある大自然と明瞭な四季、将来への産業基盤の可能性をもった農
業の展開、整備された道路や港湾、広大な大地で育まれた創造性豊かな若者たち、開拓の先
進的気風を受け継いでいる女性たち。これらの「資源」を資本として、北海道の各地域はさま
ざまに活性化していくことでしょう。
北海道に生まれ、北海道に育てられた企業として、私たちは地域密着型のビジネスモデル
を展開し、地域社会の発展に貢献できるよう、さまざまな地域振興活動を続けています。

子どもたちの一生懸命を
応援しています。

2010年から函館市で、2011年
からは旭川市でも、小学生が仮想のまちで
さまざまな職業を体験しながら社会の仕
組みを楽しく学んでいく、「キッズタウン」
が開催されています。

このイベントは、当社がまちづくり協定
を締結している函館市と旭川市に提案し、
各市町村および教育委員会で共催、地域

地域に一番近い企業であり
たいと考えています。

北海道コカ・コーラの本社および札幌工
場は、札幌市清田区にあります。当社は地
域に一番近い企業を目指して、地域の各イ
ベントに積極的に参加しています。

2009年より当社従業員と札幌国際
大学の学生たちが連携して本社近隣の高
齢者宅や道路の消火栓、ゴミステーション
などの除雪ボランティアを実施しています。



の企業・団体の方たちとの協働で開催され
るもので、イベント会場では毎回たくさん
の子どもたちが、さまざまな職業に一生懸
命に取り組んでいます。

各地域のまちづくりを
応援しています。

北海道内の5都市(札幌市・旭川市・函
館市・帯広市・釧路市)との間で、まちづく
りに関する協定を締結し、電光掲板付



製品でまちづくりを応援。



2009年より「さ
っぽろ雪まつり」応援デ
ザイン缶を販売。
2010年からは
「YOSAKOIソーラ
祭り」応援デザイン缶、
2011年からは「ジ
ョーアオリジナル北海
道限定デザイン旭川冬
まつり」を旭川市を
中心に販売していま
す。売上は各組織委
員会に寄付し、まっ
ちに役立てられます。



ジョーアオリジナル
北海道限定デザイン
旭川冬まつり缶



さっぽろ雪まつり
応援デザイン缶



YOSAKOIソーラン祭り
応援デザイン缶

水の循環プロジェクト

生命を育む、美しい水を守りたい

地球は永い年月をかけ、水を循環させている。
水の豊かな自然環境を守るため、
私たちは循環型社会の実現を目指しています。

地球は水に恵まれた星です。海は地表の70%を占め、私たちが生きる星を青く輝かせています。そして、この海からすべての生命の起源が生まれました。水はあらゆる生命を育むものであるとともに、地球環境の豊かな生態系を保ってきたのです。
しかし人間の文明の弊害から、水のもつ清浄さが失われつつあります。私たちは飲料水を製造・販売する企業として、このような地球環境における水の役割、そして地域の自然についても考えていきます。



50年かけて、森づくりにチャレンジしています。

札幌工場で製品の製造に使用している水は、札幌市清田区白旗山を水源として長い時間をかけて育まれた地下水です。これからも美しい水を守り育てていくため、2011年に、札幌市と「環境活動に関する協定」を締結。「白旗山の森づくり」として、地域の方々との植樹活動や子どもたちとの自然散策などの取り組みを開始し、今後50年にわたり継続して森づくりに取り組んでいきます。



北海道の水を守るプロジェクトを進めています。

北海道の豊かで美しい水を中心とした自然環境を守り、次世代へと引き継いでいくための「北海道e.水プロジェクト」を、2010年より北海道と(財)北海道環境財団との間で推進しています。



札幌生まれの天然水

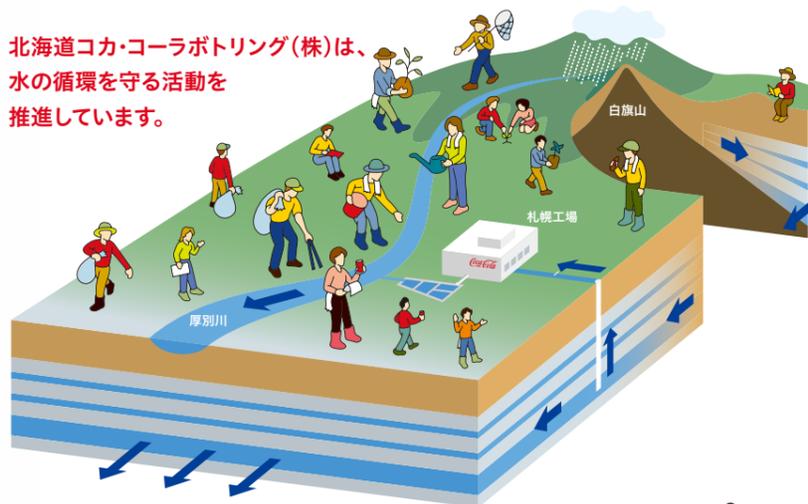
「いろはす」

札幌工場(札幌市清田区)で採水された、地元北海道の美味しい天然水「いろはす」を販売しています(※1)。地下水を利用することで地上の影響を受けにくく安定した品質を有しています。飲み終えた

あとに軽い力でコンパクトにしぼる(つぶす)ことができる日本最軽量(※2)のペットボトルを採用しており、美味しく楽しくエコに取り組めると好評です。

※1 北海道地域販売分
※2 2011年12月現在
国内製造品600ml以下のPETボトル対象/日本コカコーラ社調べ

水資源の大切さを楽しく伝えていきます。
未来を担う子どもたちに水資源の大切さについて、楽しく学んでもらうため、全道の子どもたちへ環境出張授業「もつと知ろう!水のこと。」を実施しています。
この授業では国内外の水の飲み比べをはじめ、世界の水資源に関するクイズや地元の水についての豆知識などを通じて、地域から地球全体の水について考える機会を提供しています。



北海道コカ・コーラボトリング(株)は、水の循環を守る活動を推進しています。



北海道の環境に、できることとして何だろろう

未来の子どもたちが、安心して暮らしていける北海道をつくりたい。私たちは、これからも「みんなの笑顔」を地域に咲かせていきます。



コカ・コーラ教育・環境財団
 公益財団法人コカ・コーラ教育・環境財団は、北海道栗山町とともに同町の廃校だった「雨煙別小学校」を、環境教育などを体験学習する宿泊型施設「雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」と再生して、自然環境プログラムを展開、同財団では毎年地域の環境教育・保全団体を表彰し、活動を応援しています。2011年8月に開催された「コカ・コーラ環境フォーラム」では、全国15団体がノミネートされ、北海道では「NPO法人ピオトープ・イタキンキ」が選ばれ、表彰されました。



円山動物園との協働事業

2011年6月、当社は札幌市との間で、札幌市円山動物園と白旗山における包括的な環境活動に関する協定を締結、円山動物園の生物多様性を応援していくことを目的に園内で様々な活動を展開しています。



保護された後訓練を受けたトビが野生復帰しています。



旭山動物園で循環型農業

2010年5月、当社が旭川市と協定している「魅力的なまちづくりに関する基本協定」に基づき、学生主導による環境教育プログラム「つながる輪「いのち」」をスタートしました。
 これは旭山動物園内にある、当社寄贈の休憩施設「やすらぎの森」の隣に、地元企業や学校と協働で「循環型農園」を作り、そこで旭川実業高校の学生たちが動物たちの排泄物を堆肥に、有機野菜を栽培していくものです。そして、その栽培された野菜を自分たちや動物が食べることで、「いのち」のつながりを学習する「体験型環境プログラム」となっています。



環境イベントに参加

「環境広場さっぽろ2011」をはじめ「はこだてエコフェスタ2011」に継続して参加しています。今年から「菜の花サミット」や「i n t 勝」などの環境イベントに積極的に参加し、当社の環境活動について紹介しています。



環境広場さっぽろ2011

美化活動に参加

地域の清掃活動や美化活動に参加しています。
 2011年は全事業所で通算150回、750人が参加しています。

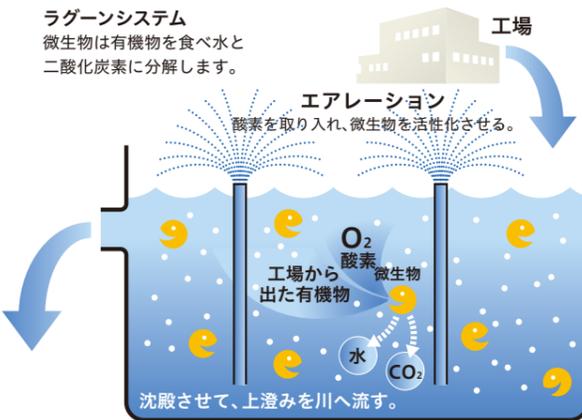


つぎつぎ、いろいろ、エコ技術

WATER RECYCLE SYSTEM

■ 自然にやさしい排水処理システム

札幌工場では「ラグーン処理方式」と呼ばれる専用施設で排水を処理し、国の排水基準を遵守しています。これは微生物の自己浄化サイクルを利用した、余剰汚泥の発生量が少ない排水処理システムです。



■ 水使用量の削減

札幌工場では容器の洗浄水、製品の殺菌工程からの回収水や冷却水などを循環利用し、約2,400m³/日(20時間稼働時)の節水を実現しています。

COD,BOD 濃度 (単位: mg/l)

	排水基準 許容限度(日間平均)	2009年 最大値(日間平均)	2010年 最大値(日間平均)	2011年 最大値(日間平均)
COD	160(120)	17.9(11.3)	13.5(8.6)	11.4(8.8)
BOD	160(120)	9.1(1.8)	3.6(1.4)	2.5(1.4)

※COD:化学的酸素要求量 BOD:生物学的酸素要求量

PLANT BOTTLE

■ プラントボトル

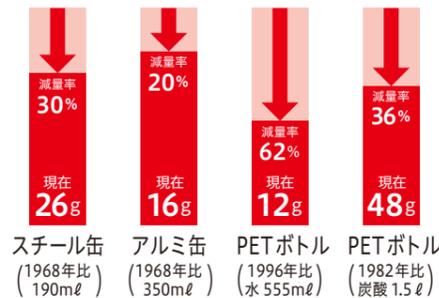
2010年3月より「い・ろ・は・す (I LOHAS)」に植物由来の素材を一部(5~30%)使用した「プラントボトル™」を導入しています。



PACKAGE

■ 容器の軽量化

コカ・コーラシステムでは、省資源化を目指して容器の軽量化を進めています。



ZERO EMISSIONS

■ 札幌工場は「ゼロエミッション」

札幌工場では、2000年より廃棄物の埋め立てと単純焼却処理を一掃し、すべてをリサイクルする「ゼロエミッション」活動に取り組み、2001年から目標を100%達成しています。

ゼロエミッションの内容

コーヒーかす・茶かす	RECYCLE	肥料
紙類	RECYCLE	再生紙、ダンボール
プラスチック類	RECYCLE	再生プラスチック、固形燃料
金属類	RECYCLE	再生金属
汚泥	RECYCLE	セメント原料・肥料
ガラス類	RECYCLE	ガラスびん
一般廃棄物	RECYCLE	発電、暖房燃料

工場廃棄物排出量

	2009年	2010年	2011年
コーヒーかす・茶かす	3,119	3,337	3,494
紙類	166	174	186
プラスチック類	136	125	136
金属類	92	98	105
汚泥	25	14	17
ガラス類	8	8	7
一般廃棄物 他	1	1	2
合計	3,546	3,758	3,948

※四捨五入のため、合計が合わない場合があります。

OBIHIRO NEW DIVISION OPEN

■ 環境に配慮した新事業所オープン

2011年11月、道東地区の物流と営業機能の強化および職場環境改善を目的に、音更町IC工業団地に「帯広事業所」がオープンしました。ここでは、事業所のLED照明を最大80%カバーすることのできるソーラーパネルの設置をはじめ、電力の見える化設備やLPGガスによるヒートポンプエアコン、節水機能を備えた洗車設備など、環境に配慮した最新の省エネ設備を備えています。2011年より本社でも「電力の見える化システム」を導入、更なる省エネ意識向上を目指します。



VENDING MACHINES

■ 省エネ自動販売機

搭載したソーラーパネルにより、夜間照明の消費電力量をすべてカバーする「ecoる/ソーラー」自動販売機や、ノンフロン・ヒートポンプ機能を搭載、ディスプレイ部分にはLED照明を採用した省エネ自動販売機の導入を進めるほか、2020年までに全ての自動販売機をノンフロンに切りかえます。



BIO DIESEL FUEL

■ バイオディーゼル燃料の導入

2010年「環境モデル都市」である帯広市と「協働のまちづくりに関する基本協定」を締結。2011年より当社のトレーラーやルートカーにバイオディーゼル燃料の導入を順次スタートしています。



REDUCE

■ グリーン調達・グリーン購入

当社のユニホームには、PET再生繊維(ポリエステル)を多く使用しています。空容器回収ボックスは、PET・PE・PPなどの再生プラスチックを使用しています。また、文具・事務用品は、再生品など環境面に配慮された製品を購入しています。

RECYCLE

■ 使用済み空容器のリサイクルを推進

大切な資源である空容器の回収とリサイクルを推進しています。回収した空容器は、自社または専門の業者によりPET・アルミ・スチールなど材質別に分別され、再度資源として有効活用されます。

国内の容器別リサイクル率 (2010年度)

アルミ缶	アルミ缶リサイクル協会	92.6%
スチール缶	スチール缶リサイクル協会	89.4%
PETボトル(回収率)	PETボトルリサイクル推進協議会	72.1%
ガラスびん(カレット使用率)	ガラスびんリサイクル促進協議会	73.4%

自然と調和する「ものづくり」

環境会計

2011年における当社環境保全活動の取り組み内容と結果を環境会計(環境省ガイドライン参考)で表しました。

環境保全コスト

札幌工場は水使用料削減のため、節水設備を統合しました。また、排水処理施設の中和処理設備及び排水分析室を新設し、排水管理を強化しました。

帯広事業所新築時にはソーラーパネルの設置、節水洗車場、LED照明の導入等環境に配慮しました。

環境保全コスト

項目	主な取り組みの内容	2009年		2010年		2011年	
		投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
1.事業エリア内コスト	計	23,164	121,473	13,545	117,832	57,415	121,488
(1)公害防止コスト	工場排水処理 他	12,586	53,396	0	55,868	28,990	59,050
(2)地球環境保全コスト	工場節水設備・省エネルギー設備 他	6,444	25,733	13,545	21,755	27,445	21,599
	自動販売機のフロン回収・破壊	0	11,023	0	9,064	0	9,134
	クリーンエネルギー車導入(天然ガス車・ハイブリッド車)	0	4,012	0	5,488	0	5,488
(3)資源循環コスト	各事業所の廃棄物の処理・リサイクル	4,134	24,553	0	23,392	980	23,933
	自動販売機の処理・リサイクル	0	2,756	0	2,265	0	2,283
2.上・下流コスト	計	0	121,163	0	119,038	0	111,237
	空容器の回収・リサイクル	0	30,079	0	24,526	0	25,652
	空容器回収ボックス・空容器回収用ポリ袋	0	43,404	0	47,640	0	47,439
	再商品化委託費 他	0	47,680	0	46,871	0	38,145
3.管理活動コスト	計	0	37,833	0	35,375	0	29,853
	環境負荷の測定	0	25,685	0	26,943	0	19,249
	EMSシステム構築・運用、環境コミュニケーション	0	12,148	0	8,432	0	8,605
4.社会活動コスト	計	0	16,791	0	16,993	0	17,432
	業界団体活動、環境支援活動 他	0	16,271	0	16,473	0	16,912
	本社構内緑化保守	0	520	0	520	0	520
	合計	23,164	297,260	13,545	289,238	57,415	278,010

(単位:千円)

環境保全効果

省エネタイプの自動販売機導入のため、総エネルギー使用量、CO₂排出量を削減できました。

今後も、効果的な環境改善活動を継続し、環境負荷削減に努めます。

効果1 環境保全効果

項目	単位	2009年	2010年	2011年	
		実績値	実績値	実績値	対前年増減率(%)
総エネルギー(熱量換算)	Gj	1,613,470	1,574,573	1,546,243	-1.8%
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	75,179	73,313	72,039	-1.7%
NOx排出量	燃焼設備	6.6	7.1	7.1	1.1%
	車両	69.9	64.7	63.3	-2.1%
水使用量	m ³	1,269,213	1,415,407	1,393,333	-1.6%

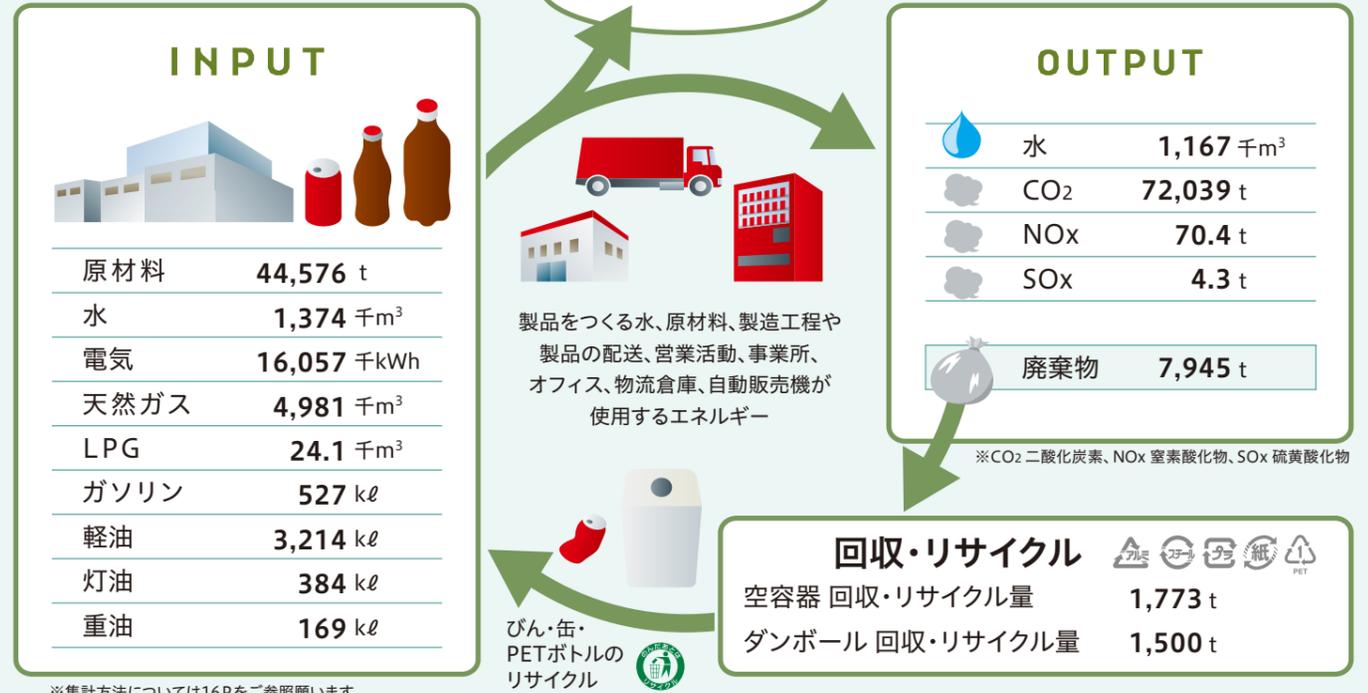
効果2 環境保全対策に伴う経済効果

内容	2009年	2010年	2011年
リサイクルにより得られた有価物の売却額(自動販売機、缶、PET、プラスチック、古紙等)	20,114	38,468	43,238

(単位:千円)

<集計方法について>
 ・CO₂は電力・燃料より、NOx・SOxは燃料より算出しています。(SOxは排出量が微量であるため、環境保全効果の表中には記載していません。)
 ・燃料由来のCO₂排出量は、「地球温暖化対策推進法施行令」に基づく換算係数より算出しています。
 ・電力由来のCO₂排出量は、電気事業連合会のCO₂排出原単位(2004年度)より算出しています。
 ・NOx排出量は、環境省「環境活動評価プログラム」の排出係数より算出しています。
 ・SOx排出量は、燃料の組成より理論値を用いて算出しています。
 ・車両の項目には、敷地内で使用するフォークリフト及び当社製品等を運搬している外部委託車両の燃料使用量を含めています。
 また、物流組織の変更により、2009年度から算出範囲が変更となっています。(道外移入など算出範囲が広がっています)

マテリアルバランス



※集計方法については16Pをご参照願います。

CO₂ 排出量の推移 (t)



エネルギー使用量(熱量換算)の推移 (Gj)



使用電力量の推移 (千kWh)



水使用量の推移 (千m³)



空容器回収量の推移 (t)



※四捨五入のため、合計が合わない可能性があります。

「ふれあい」と「きずな」を求めて

明日の素敵な北海道をつくるため、人びとの心をひとつに結び、地域のきずなを深めるなど、うるおいとふれあいをテーマに歩み続けます。

44年目のクリスマスプレゼント

1968年より毎年道内各市町村に福祉施設にクリスマスプレゼントとして当社製品をお届けしています。2011年は約11万本を道内416カ所へ寄贈、1968年からの累計で248万2千本となりました。



YOSAKOIソーラン祭りを応援

私たちは、初夏の札幌を彩る「YOSAKOIソーラン祭り」をオフィシャルスポンサーとして応援しています。また、地元の札幌国際大学と協働し、「コカ・コーラ札幌国際大学チーム」として第3回から連続参加しており、2009年から2011年まで3年続けてファイナルに進出しました。さらに、「YOSAKOIソーラン祭り」応援デザイン缶の売上の一部を同組織委員会に寄付し、祭りを応援しています。



プロスポーツチームを応援

2007年より、当社は「北海道日本ハムファイターズ」とスポンサー契約を結び、毎年、応援キャンペーンとイベントデーを開催しています。



©2012H.F.C.

また、2007年よりQooが球団マスコット「B・B」と一緒に道内の幼稚園や保育園を訪問し、「ちゃんと食べよう体操」を通じて、子どもたちの食育を応援しています。また、J1リーグに昇格した「コンサドーレ札幌」をスポンサーとして応援しています。



清田区少年少女大なわとび大会

2011年11月、札幌市清田区体育館に区内の小学生約700名が集まり、「第14回清田区少年少女大なわとび大会」が開催されました。私たちは大会スポンサーとして第一回より飲料を提供して大会を応援しています。



クリスマスに笑顔

2011年12月メイクアップアーティストの横山美和さんとコラボした、クリスマスイベント「FANTASIA」が、札幌駅地下歩行空間とミュンヘンクリスマス市にオープンしました。訪れた方たちに、クリスマスとコカ・コーラに関する素敵なメイクで笑顔をお届けしました。



ピンクリボン活動を応援

2010年5月、私たちは乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝える「ピンクリボン運動」の推進に関する協定を(財)北海道対がん協会と締結しました。「ピンクリボン自動販売機」の売上の一部は、北海道の乳がん予防の啓もう活動に役立てられています。

また、小児がんの子どもたちを応援する「ゴールドリボン運動」、病気の子どもたちのためのキャンプ「そらぷちキッズキャンプ」も応援しています。



北海道コカ・コーラボトリンググループの歩んだ軌跡

私たち北海道コカ・コーラボトリング株式会社の創立は1963年。以来、半世紀近く、北海道のみなさまに温かく見守られ、育てられてきました。これからも人や地域社会に「さわやかさと潤い」をお届けしていきます。



1886年(明治19年)
ジョン・S・ペンバートン博士が「コカ・コーラ」を発明

1894年ミシシッピ州ヴィックスバーグで、びん詰めのコカ・コーラが初めて製造されました。(現在のかたちにつながるボトルが登場したのは1915年)



1963年 創業当時のルートカー

1957年(昭和32年)
日本コカ・コーラ株式会社で「コカ・コーラ」の製造開始

1963年(昭和38年)
札幌工場竣工
商号を北海道コカ・コーラボトリング株式会社に改称
「コカ・コーラ」および「ファンタ」の販売を開始
北海道飲料株式会社として設立

1994年(平成6年)
YOSAKOIソーラン祭りに「コカ・コーラ札幌国際大学チーム」として参加

2006年(平成18年)
北海道と防災協定を締結
子どもの安全を見守る運動スタート

2007年(平成19年)
「ジョージアサントスプレミアム」の売上の一部を北海道に寄付

2009年(平成21年)
ミネラルウォーター
「い・ろ・は・す (I LOHAS)」の販売を開始



2010年(平成22年)
北海道e-水プロジェクトスタート

2012年(平成24年)
札幌工場では新たに工場ラインが増設。
札幌工場新マルチPETライン稼働
これからは北海道の良質な砂糖やミルク、美味しい水を使用して、地産地消を応援していきます。



コラム

自動販売機オペレーターの日

北海道コカ・コーラのオペレーターは、安全運転はもちろんのこと、お客さまの嗜好や製品の鮮度管理、地域社会の安全や環境への配慮などを忘れません。



安全運転
安全運転はもちろん、省エネのためのエコドライブにも努めています。また、車両に「子どもの安全を見守る運動」のステッカーを掲示、業務中でも安全・安心のために配慮しています。



製品選定
お客さまの好みにあった製品をお届けするために、自動販売機ごとに品揃えを見直しています。

安全運転のために
幸楽輸送(株)では、遠隔地においてもT点呼を実施し、運転免許の携帯や有効期限の確認のチェックを行うほか、医療用血圧計を運動させ、血圧の記録を送信・管理することで健康を管理し、安全運転に努めています。また、ドライブレコーダーで運行を記録しています。

出発前のアルコールチェック
北海道コカ・コーラグループでは、車両運行前には必ずアルコール計測を行っています。



コミュニケーション
お客さまへの挨拶から作業スタート

品質管理
賞味期限切れを防ぐため、在庫管理システムや目視での確認で鮮度管理を行っています。
リサイクルボックスより空容器を回収してリサイクルにつながります。



環境方針

環境理念

北海道コカ・コーラボトリンググループは、責任ある企業市民として、地球環境の保全に配慮した事業活動を行い、地域社会の豊かな環境の維持と社会の継続的な発展に貢献します。

環境行動指針

1. 省エネルギー、省資源に努め、環境負荷を低減します。
2. 事業活動に伴う廃棄物の削減と再資源化を促進するとともに、汚染の予防に努めます。
3. 環境保全に対する全従業員の意識向上を図り、グループをあげて環境保全活動に取り組めます。
4. 地域社会における環境保全活動への協力・支援を推進します。
5. 環境に配慮した物品の購入を促進します。
6. 環境関連法規制、KORE(コカ・コーラシステム)が定める基準及びその他の要求事項を遵守します。

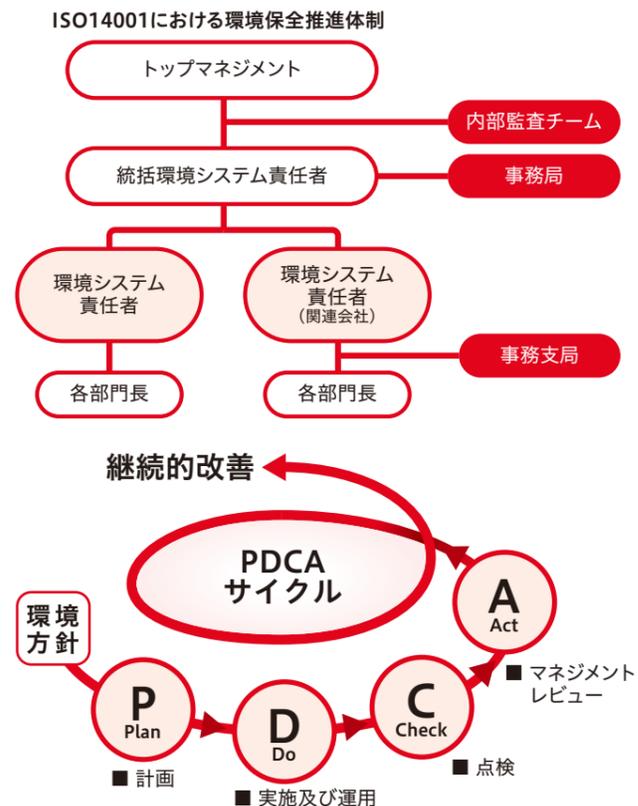
2011年4月26日制定

ISO14001認証取得

2010年2月、本社敷地内に所在する、当社グループの各事業所で、環境マネジメントシステムの国際標準規格である[ISO14001:2004]を認証取得しました。組織として決定した環境方針のもとで、事業活動・製品及びサービスが環境に与える影響を把握・評価・是正し、継続的に改善していくことによって、省資源・省エネルギーをはじめとする環境負荷の低減に努めていきます。また、廃棄物の削減、再資源化の促進、汚染の予防、そして環境保全に対する全従業員の意識向上などに積極的に取り組んでいきます。



ISO14001:2004認証



持続可能な企業活動を目指して

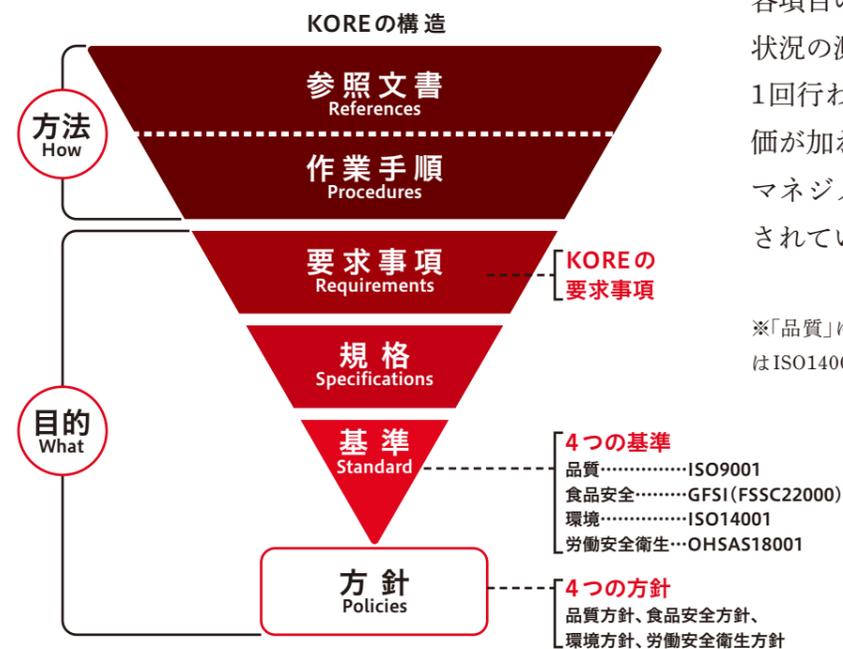
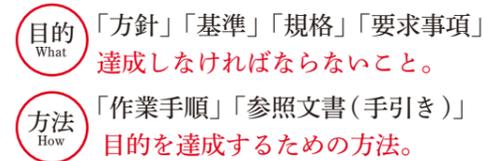
KORE

Coca-Cola(KO*) コカ・コーラ
オペレーティングリクワイアメント
OPERATING REQUIREMENTS

*「KO」は、ニューヨーク証券取引所に上場しているコカ・コーラカンパニーの略称です。

○構造と特徴

- >> 4つの側面をカバー
品質、食品安全、環境、労働安全衛生
- >> 国際規格のISO、各種法令+αの厳しい基準
- >> 大きく2つの階層に分かれる



マネジメントシステム「KORE」

コカ・コーラシステムは世界共通で「KORE (Coca-Cola Operating Requirements)」と呼ばれる独自のマネジメントシステムでオペレーション管理を行っています。「KORE」は原材料の調達から製造、物流・輸送、販売を経てお客さまに製品が届くまでの過程における「品質」「食品安全」「環境」および「労働安全衛生」に関する基準を網羅したシステムで、国際規格であるISOや各種法令の要求事項を満たしつつ、さらに厳しい基準を自らに課す内容となっています*。

各項目の要求事項に対して実際のパフォーマンス状況の測定が審査登録機関によって少なくとも年1回行われています。社外第三者からの客観的評価が加わることで、コカ・コーラシステムにおけるマネジメントシステムの公明・公正な運用が保証されています。

*「品質」に関してはISO9001に、「食品安全」はGFSIに、「環境」はISO14001に、「労働安全衛生」はOHSAS18001に準拠。

より高品質な「製品」を求めて

お客さまのお手元に届くまでの鮮度管理や製品取扱をはじめ、安全と安心もお届けするために、地道な活動を続けています。

安全で安心な製品をお客さまへ

全社でISO9001・2008の認証を取得

コカ・コーラシステムは、いつでも、どこでも、だれにでも、安心してお客さまにお飲みいただける高品質な製品を提供するために努めています。2004年からは「フレッシュネス活動」を開始し、在庫の適正管理によって、製造からお客さまの手元に届くまでの期間に目標を設定するなどの取り組みを行いました。

2007年には、全社（製造・販売・管理部門）を対象に、品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001・2000」の認証を取得し、2009年10月には「ISO9001・2008」への移行認証を受けました。今後も、グループ全員で経営品質を高めていく活動に取り組んでいきます。

新鮮な製品をお届けするために

お客さまのお手元に届くまでの鮮度管理目標や製品取扱管理基準を設け、賞味期限切れや容器不良の防止に取り組んでいます。特に、自動販売機における賞味期限切れの防止については、自動販売機へ商品を装填する営業担当者が、適正本数の装填と補充時のチェック活動を行っています。

そのほか、工場倉庫出荷から自動販売機へ装填されるまでの管理や在庫の適正化、缶ウオーマーの温度管理などのガイドラインを設定し、安全かつ高品質な製品とサービスの提供に努めています。

ISO10002への適合を宣言

私たちは、お客さまから寄せられるご指摘・ご提案・お問い合わせなどの声を大切にしています。

お客さまへの対応について、ご指摘（苦情）対応に関する国際規格「ISO10002」に適合していることを確認し、2007年8月に適合を宣言しました。



ISO9001:2008認証

基本理念

私たちは、生活者やお客さまに「さわやかさと潤い」をお届けしたいと考えています。

お客さまとのコミュニケーションを大切にし、お客さまへ安全で安心できる製品、サービスを提供するとともに、お客さまの声を積極的に企業活動に活かし、地域のみならず「信頼され、認められる企業」を目指してまいります。

基本方針

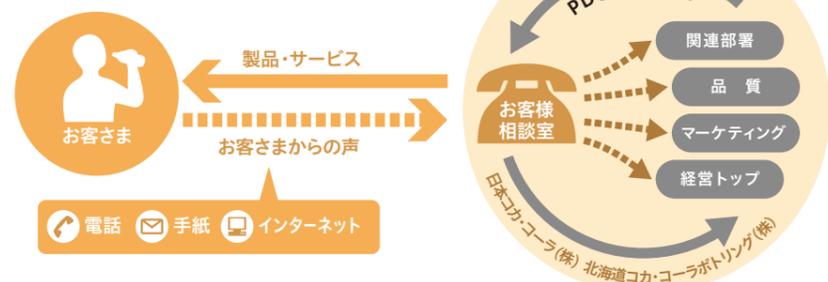
(1) お客さまの声を真摯に受け止め、公正、公平で透明性の高い対応を心掛けるとともに、迅速、適切に行動します。

(2) お客さまとの大切なコミュニケーションの機会ととらえ、積極的な情報提供を行います。

(3) 社会に対する責任を自覚し、関連する法的、倫理的な要求事項や自主的基準を遵守します。

(4) お客さま満足の向上を目指して、常に最善を尽くします。

お客さまへの対応について、ご指摘（苦情）対応に関する国際規格[ISO10002]に適合していることを確認し、2007年8月に適合を宣言しました。



製品に関するお問い合わせは

日本コカ・コーラ(株)お客様相談室

サワヤカコーク

☎ 0120-308509 (土日祝祭日を除く) 9:30~17:00

🌐 URL <http://www.cocacola.co.jp>



※「KORE」はISO9001(品質マネジメントシステム)、FSSC22000(食品安全マネジメントシステム)、ISO14001(環境マネジメントシステム)、OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)の基準が含まれています。

札幌工場の取り組み

札幌工場では、コカ・コーラシステムが世界共通で導入している独自のマネジメントシステム「KORE」の4つの側面である、品質・食品安全・環境・労働安全衛生の観点から、製品の安全性を追求し、品質の向上を図っています。2010年には、食品安全マネジメントシステムの認証規格である「FSSC22000・2010」を取得しました。

また、安全・安心の品質を守るために、複数の検査士による味覚検査をはじめ、製造設備の徹底したメンテナンスの実施、さらに使用する水質の安全性の保証に努めています。

より信頼される企業を目指して

企業としての社会的責任を果たすとともに、
 企業倫理活動への取り組みを進め、
 一人ひとりが安心して働ける職場づくりを進めています。

企業としての社会的責任を果たす

コーポレート・ガバナンス

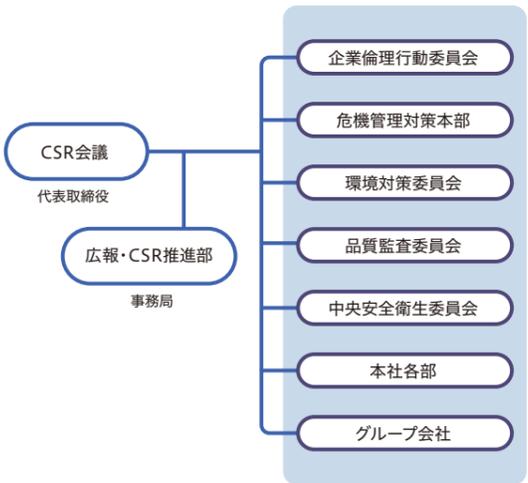
企業倫理とコンプライアンスの重要性を認識し、企業の社会的責任(CSR)を果たすことを経営上の最も重要な課題の一つと位置づけています。お客さま、株主・投資家のみなさま、お取引先さま、社員などさまざまなステークホルダー(利害関係者)と良好な関係を築くとともに、的確な経営の意思決定、それに基づく業務遂行、適正な監督・監査を可能とする経営体制を構築し、総合的にコーポレート・ガバナンスの充実が図られるよう努めています。

内部統制システム

会社法の施行にともない「業務の適正を確保するための体制の基本方針」について取締役会決議し、併せて当社の内部統制システムの強化と、社会的信頼の獲得に資することを目的とした「北海道コカ・コーラグループコンプライアンス管理基本規

CSR会議の定例開催

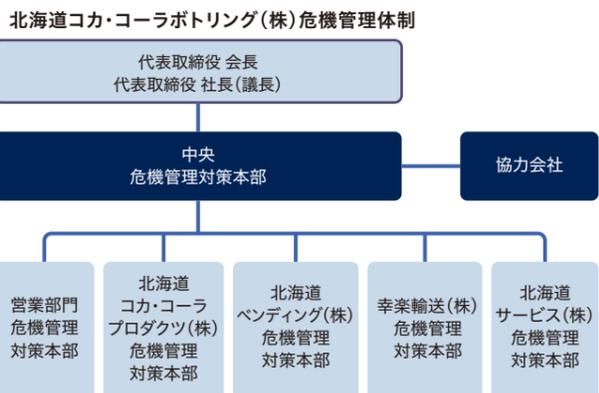
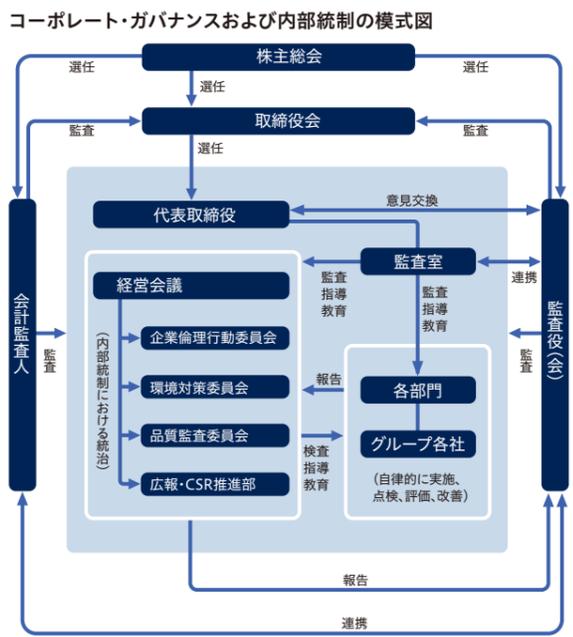
CSR経営を推進するうえでの現状分析と課題の抽出に取り組み、地域に貢献する企業市民として適切な活動ができるよう、各委員会や本社各部門・グループ各社で構成する「CSR会議」を定例開催し、グループ全体として組織的なCSR活動を展開しています。



災害発生時の取り組み

万が一の災害発生時には、従業員の安否を素早く確認するために、携帯電話を活用した「斉配信」による安否確認の取り組みを進めるとともに、災害時に不足が予想される物品を備蓄し、従業員の安全を確保しています。

「程」を制定しています。また、ステークホルダーに対する適切な情報開示とグループ経営基盤強化の環として、金融商品取引法に対応するための「内部統制の基本方針書」を制定し、財務報告に係わる内部統制の適切な整備・運用および、その評価・報告を毎期継続して行うことに努めています。



危機管理体制の強化
 当社は、天災・製品事故等が発生した際の対応手順である「危機管理マニュアル」を制定すると同時に、危機管理対策本部・品質監査委員会などの設置によってリスク管理体制を構築しております。また、コカ・コーラシステムの危機管理システム(IMCR)との連携や研修等を通じ、リスク管理対応力を強化しています。

企業倫理活動への取り組み

良き企業市民であり続けるために、1997年12月に設置した「企業倫理行動委員会」のもと、企業倫理活動を推進しています。また、従業員が上長などに相談しにくい場合の相談窓口として、匿名性の確保と相談内容の機密保持に万全を期した「オープンドア・ルーム」を運用しています。

個人情報の保護について

お客さま・お取引先さまをはじめとする個人情報の重要性を認識し、2005年4月に完全施行された個人情報保護法を遵守するため、個人情報保護ポリシーおよび個人情報保護規程を制定するとともに、e・ラーニングなどの社員教育やITセキュリティの強化など、個人情報の保護にグループ全体で取り組んでいます。

交通安全への取り組み

車両事故の未然防止、交通ルールマナーの遵守及び安全意識の向上を図ることを目的に、アルコール検知器やドライブレコーダーを導入しているほか、交通事故を起こした社員を対象に動画による危険予知訓練を行うなど車両事故の再発防止にも努めています。

休業支援の取り組み

仕事と家庭生活の両立を図ることを目的に「育児・介護休業法」の定めに基づいた、育児休業制度、介護休業制度、子どもの看護休暇、所定労働時間を最大3時間短縮する育児短時間勤務制度のほか、所定外労働時間の免除、育児のための時差勤務制度を設け、安心して働くことのできる休業支援体制を整備しています。

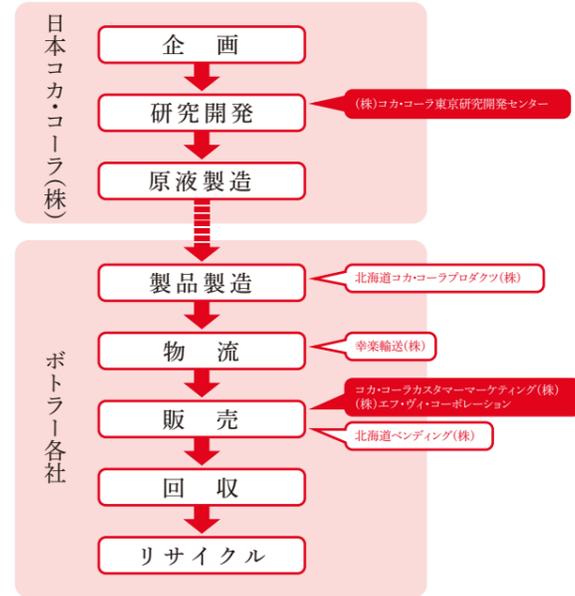
障がい者の雇用について

障がい者の雇用率はグループ全体で2.8%と法定雇用率(1.8%)に達しています。これからもハローワーク等の求人活動を通じて、積極的に障がい者雇用を実現していきます。

グローバル人員育成制度について

社員が働きながら幅広い知識や高度な専門能力を積極的に習得していくことを支援する「グローバル人員育成制度」を2011年に開設しました。ビジネススクールでMBAの習得を目指す「MBAコース」や、語学スクールで英語・中国語の習得を目指す「語学コース」のほか、2012年からはコカ・コーラシステムをグローバルな視点から学び、体験する「海外研修コース」を新たに開設しています。

コカ・コーラシステム概要



環境問題や健康意識の高まりなどによって、私たちコカ・コーラシステムをとりまく事業環境は大きく変化しています。

私たちコカ・コーラシステムでは、事業活動と地域社会の持続可能な成長を目指して、全世界共通の事業指針である「Live Positively (リブ・ポジティブリー)-世界をプラスにまわそう-」を2009年より導入しています。

環境

- 地球の温暖化防止・エネルギー削減
- 容器の軽量化・空容器回収・リサイクル
- 水資源保護

市場

- 安全な製品の提供
- あらゆる人々のニーズに応える製品価値の提供
- 消費者のアクティブで健康的な生活のサポート

社会

- 地域社会への貢献

職場

- 安全かつ魅力ある職場環境づくり

さわやかに、人にやさしく

経営理念

私たちは、21世紀の創発的な社会に貢献する。

経営指針

- 私たちは、
1. 生活者やパートナーに「さわやかさと潤い」を提供します。
 2. 生活者やパートナーとの共存共栄を図るとともに地域社会に貢献します。
 3. 変革にチャレンジし、活力ある創発的な企業グループをつくります。

社員行動規準

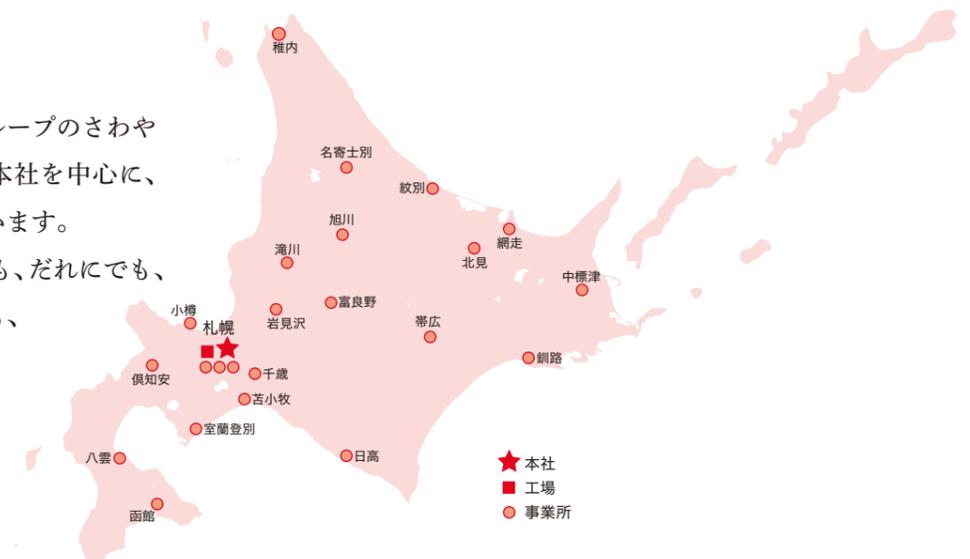
- ・私たちは、常に「さわやかさと潤い」を届けます。
- ・私たちは、生活者やパートナーとのコミュニケーションを大切にします。
- ・私たちは、一人ひとりがさわやかな存在になります。
- ・私たちは、時代の変化に適応し変革を起こし続けます。
- ・私たちは、「環境に、地域に優しい」企業活動を実践します。
- ・私たちは、良き「企業市民」として社会に貢献します。

中期経営計画

コカ・コーラのブランド力と道産子企業の地域密着力で北海道に貢献する。

さわやかさのネットワーク

北海道コカ・コーラボトリンググループのさわやかさのネットワークは、札幌の本社を中心に、広く全道各地へ拠点網を有しています。この北海道で、いつでも、どこでも、だれにでも、変わらない味をお届けできるのも、地域に密着したネットワークがあるからこそ可能なのです。



会社の概要

商号	北海道コカ・コーラボトリング株式会社 (コカ・コーラ指定会社) HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.
設立	1963年1月24日
代表者	代表取締役会長 角野 中原 代表取締役社長 矢吹 健次
本社所在地	〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 TEL(011)888-2001(総務人事部)
資本金	29億3,515万4千円
従業員数	473名(グループ1,052名) (2012年3月末日現在)
事業の概要	北海道を販売地域とした清涼飲料の製造 および販売
事業所	本社、札幌工場、営業拠点(22)
決算期日	毎年12月31日(年1回)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部、札幌証券取引所

グループ会社の概要

北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社	清涼飲料水及び飲料水用容器の製造 各種自動販売機の修理、設置及び撤去
北海道ベンディング株式会社	自動販売機による飲料、食品等の販売
幸楽輸送株式会社	コカ・コーラ社製品の工場・営業所間の輸送、一般貨物輸送、倉庫業
北海道サービス株式会社	一般事務処理業務、CD・ビデオの販売・賃貸、書籍等の販売、 事務機器等のリース、清掃業、損害保険代理業

企業集団の財産および 損益の状況の推移

区分	第48期 (2009年)	第49期 (2010年)	第50期 (2011年)
売上高	62,828 百万円	63,043 百万円	57,072 百万円
経常利益	△479 百万円	1,357 百万円	1,503 百万円
当期純利益	△529 百万円	1,375 百万円	2,651 百万円

北海道限定コカ・コーラファンサイト開設

2011年より、当社に関するお得で楽しい情報をお届けする会員制ポータルサイトを開設しています。ネット通販や定期購入も実施しており、お客さまへダイレクトに商品をお届けします。
<http://fan.hokkaido.ccbc.co.jp/>



工場見学ブログ更新中

札幌工場の見学担当者による「工場見学日記」を公開し、日々の出来事や気になる情報などを配信しています。
http://blog.livedoor.jp/coca_sapporo/



札幌工場へようこそ！

当社では創業以来工場見学を実施しています。工場見学では、徹底した衛生管理のもと製造されるコカ・コーラ社製品の製造工程に加え、昔懐かしい自動販売機やポスター、環境・地域との取り組みなどを、案内員がわかりやすく紹介しています。2011年は年間見学者数が20,000人を突破し、たくさんのお客さまにお越し頂くことができました。近年では社会見学、修学旅行に加え、大人のお客さまにも多くご来場いただいていることから、年代に応じた説明内容で皆さまにご満足いただけるプログラムとなっています。



<ご来場者さまの声>

- ◎大人が夢中になってしまうほど楽しかった。
- ◎子どもの自由研究に活用できる内容で良かったです。
- ◎コカ・コーラがもっと好きになりました。
- ◎災害支援にも積極的に取り組んでいて好感が持てました。
- ◎製造ラインのスピードの速さと立体自動倉庫の規模の大きさにびっくりしました。
- ◎今まで以上にコカ・コーラに対し好感度が上がりました。
- ◎北海道で飲んでいる製品が札幌工場で作られていることに驚いた。

ツアーのご案内 (所要時間 約60分)

冷えたコカ・コーラと記念品をご用意していますので、みなさまのお越しをお待ちしています。

概要説明 5分

製造工程
立体自動倉庫見学

お客さまの声にお応えし、7~9月は土曜日も見学いただけます。



35分

ビデオ上映・試飲 20分

工場見学のお申し込み方法

工場見学はあらかじめお申し込みが必要です。直接お電話またはお手紙でご予約ください。

- 見学できる時間 毎週月曜～金曜日
(午前10:00～12:00・午後1:30～4:30 祝祭日も可)
※祝祭日は一部休みの日もあります。
※7～9月は土日も見学いただけます。
- 所要時間 約60分(ご要望に応じて調整することができます。)
- 場所 札幌工場 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号



お申し込み・お問い合わせ **011-888-2100** (広報・CSR推進部 広報課)

「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社 CSRレポート2012」をお読みいただき誠にありがとうございます。

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただくため、みなさまのご意見・ご感想を、FAXまたは郵送にてお寄せいただければ幸いです。

に印をおつけください。

- Q1** このレポートについての評価をお聞かせください。
- | | | | |
|---------------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| ●内容の充実度 | <input type="checkbox"/> 充実している | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 不足している |
| ●情報量 | <input type="checkbox"/> 多すぎる | <input type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 少なすぎる |
| ●読みやすさ、わかりやすさ | <input type="checkbox"/> 良い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い |
| ●デザイン | <input type="checkbox"/> 良い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い |

- Q2** 特に興味を持たれた内容がありましたか？(いくつでも)
- | | |
|--|--------------------------|
| <input type="checkbox"/> 安全・安心ネットワーク | 安心のために、できることを一歩ずつ |
| <input type="checkbox"/> 北の大地に防災と防犯のネットワークを広げて | |
| <input type="checkbox"/> 地域振興の取り組み | つながる、ひろげる、ふれあいの輪 |
| <input type="checkbox"/> 水の循環プロジェクト | 生命を育む、美しい水を守りたい |
| <input type="checkbox"/> 環境コミュニケーション | 北海道の環境に、できることって何だろう |
| <input type="checkbox"/> 環境負荷低減 | つきつぎ、いろいろ、エコ技術 |
| <input type="checkbox"/> 環境会計 | 自然と調和する「ものづくり」 |
| <input type="checkbox"/> 地域への取り組み | 「ふれあい」と「きずな」を求めて |
| <input type="checkbox"/> 地域社会 | 北海道コカ・コーラボトリンググループの歩んだ軌跡 |
| <input type="checkbox"/> 自動販売機オペレーターの日 | |
| <input type="checkbox"/> マネジメントシステム | 持続可能な企業活動を目指して |
| <input type="checkbox"/> 品質管理 | より高品質な「製品」を求めて |
| <input type="checkbox"/> 企業としての社会的責任 | より信頼される企業を目指して |
| <input type="checkbox"/> コカ・コーラシステム | さわやかに、人にやさしく |
| <input type="checkbox"/> 工場見学 | 札幌工場へようこそ！ |
| <input type="checkbox"/> プロフィール | 会社の概要 |

- Q3** どのようなお立場でお読みになられましたか？
- | | | |
|--|---|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> お客さま | <input type="checkbox"/> お取引先 | <input type="checkbox"/> 株主・投資家 |
| <input type="checkbox"/> 企業・団体のCSRご担当者 | <input type="checkbox"/> 行政関係 | <input type="checkbox"/> NGO/NPO |
| <input type="checkbox"/> 当社グループ社員・家族 | <input type="checkbox"/> 当社グループの事業所近隣の方 | <input type="checkbox"/> 学生 |
| <input type="checkbox"/> 研究・教育機関 | <input type="checkbox"/> 報道関係 | |
| <input type="checkbox"/> その他() | | |

Q4 その他、ご意見・ご感想などご自由にご記入ください。

◆ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下記もご記入ください。

- 性別/ 男性 年齢/ 16歳未満 16～20歳 21～25歳 26～30歳 31～40歳
 女性 41～50歳 51～60歳 61～70歳 71歳以上

アンケート送付先

北海道コカ・コーラ ボトリング株式会社 広報・CSR推進部
〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2135



011-883-0249